

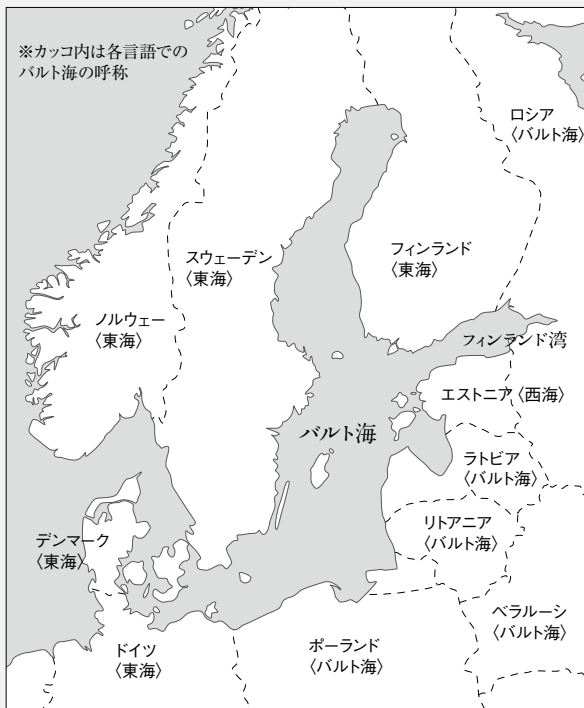
# もうひとつの「東海」

しょうじ ひろし 庄司博史 民博 民族社会研究部

バルト海を囲んで

いま日本と韓国のあいだでは、韓国が「日本海」という名称に代わり自国語での「東海」(トンヘ)を国際的に認めさせようとしていることで、主張が対立しているが、ここではヨーロッパのバルト海をめぐっての話である。

バルト海を囲む国が多いなか、「バルト」を用いるのはバルト海南岸のポーランドからバルト三国のうちラトビア、リトアニアとロシアにかけてで、ドイツではオストゼー(東海)とよばれている。いうまでもなくドイツからみて東に位置するからであるが、この「東海」に由来する名称はドイツ語にならって北欧のノルウェー、デンマーク、スウェーデンでも用いられている。おもしろいことに、自国からみてバルト海が東ではなく西に位置するフィンランドでも、おそらく長くスウェーデンの支配下にあったためか、イタメリ(東海)が用いられており、それへ異議が唱えられたことなど聞いたことはない。



西か東か

バルトといえば昨年引退したエストニア出身の元大関、把瑠都を思い浮かべる人もいるだろう。このしこ名はエス

トニアが臨むバルト海にちなんだつけられたのだが、じつは、当のエストニアではバルト海とはよんでいない。では歴史的に関係の深いドイツやフィンランドのように「東海」か、というところでもない。エストニア語でバルト海はレーネメリといい、その意味は「西海」。つまり自国の西側に位置する海を理屈に基づいてよんだだけである。小国エストニア一国

のみが、自国の西側に位置するバルト海を「西海」と名付けてがんばっていることになる。これが文献に現れだした一九世紀中葉まで、「東海」に由来する名称もあったようだが、長く文化的支配下にあったドイツや当時の支配国ロシアに逆らっても理屈を通したのとは、当時の民族意識の高揚ともかかわりがあるのだろうか。

## 名称と国際問題

ところで、このバルト海の東端にはフィンランド湾がある。フィンランドとエストニア、ロシアに囲まれ、三国にとつては生命線ともいえる重要な海路となっているが、こちらの方はすべての国で「フィンランド湾」という名称が共有されている。国際水路であるのは明確だが特定国の名称がはいっているといて論争のもとになっているわけではない。